

# 釜石市地方創生アドバイザー会議

2024.2.28 10:30～

ちよだプラットフォームスクエア506会議室

- 1 開会
- 2 出席者紹介
- 3 委嘱状交付
- 4 市長あいさつ
- 5 意見交換
- 6 閉会



## 釜石市地方創生アドバイザー

氏名	所属・役職
枝見 太郎	社会福祉法人東京都共同募金会 常務理事・事務局長
大久保 和孝	株式会社大久保アソシエイツ 代表取締役
藤沢 烈	一般社団法人RCF 代表理事
青木 健治	UBS証券株式会社 エグゼクティブディレクター
鈴木 寛	東京大学公共政策学連携研究部 教授
吉野 英岐	岩手県立大学総合政策学部 教授
玄田 有史	東京大学社会科学研究所 教授
小安 美和	株式会社Will Lab 代表取締役
横田 浩一	株式会社横田アソシエイツ 代表取締役
川久保 俊	法政大学 デザイン工学部建築学科 教授
佐藤 摩利子	国際移住機構本部

※敬称略・順不同



# あいさつ

釜石市長 小野 共



## 意見交換

# 地方創生に向けた取組状況について

(進行：小野釜石市長)





# 復旧・復興事業は着実に進展、2023年3月で復興事業は全て完了



## 自立再建宅地の整備

### ○市街地部

- 土地所有者を対象として、区画整理事業や津波復興拠点整備事業を導入し、宅地整備を実施
- 5地区において、1,237区画を整備
- 画像は鵜住居地区における区画整理事業の実施状況



### ○漁村部

- 防潮堤背後地に居住していた方々を対象として、防災集団移転促進事業及び漁業集落防災機能強化事業を導入し、高台移転を実施
- 13地区において、213区画を整備
- 画像は両石地区における高台移転事業の実施状況（約15mのかさ上げ）



## 復興公営住宅（災害公営住宅）の整備

### ○市街地部

- 土地の制約上、主に高層階の集合住宅を整備（※漁村部も併せ1,128戸整備）
- 当該住宅は、市内各地から被災者が入居するため、新たなコミュニティ形成が必要
- 基本的に市でお膳立てして、自治会を設立し、緩やかな見守りを実施
- 加えて、将来の孤立防止を目的として、高齢者世帯は低層階、エレベーター近辺に入居

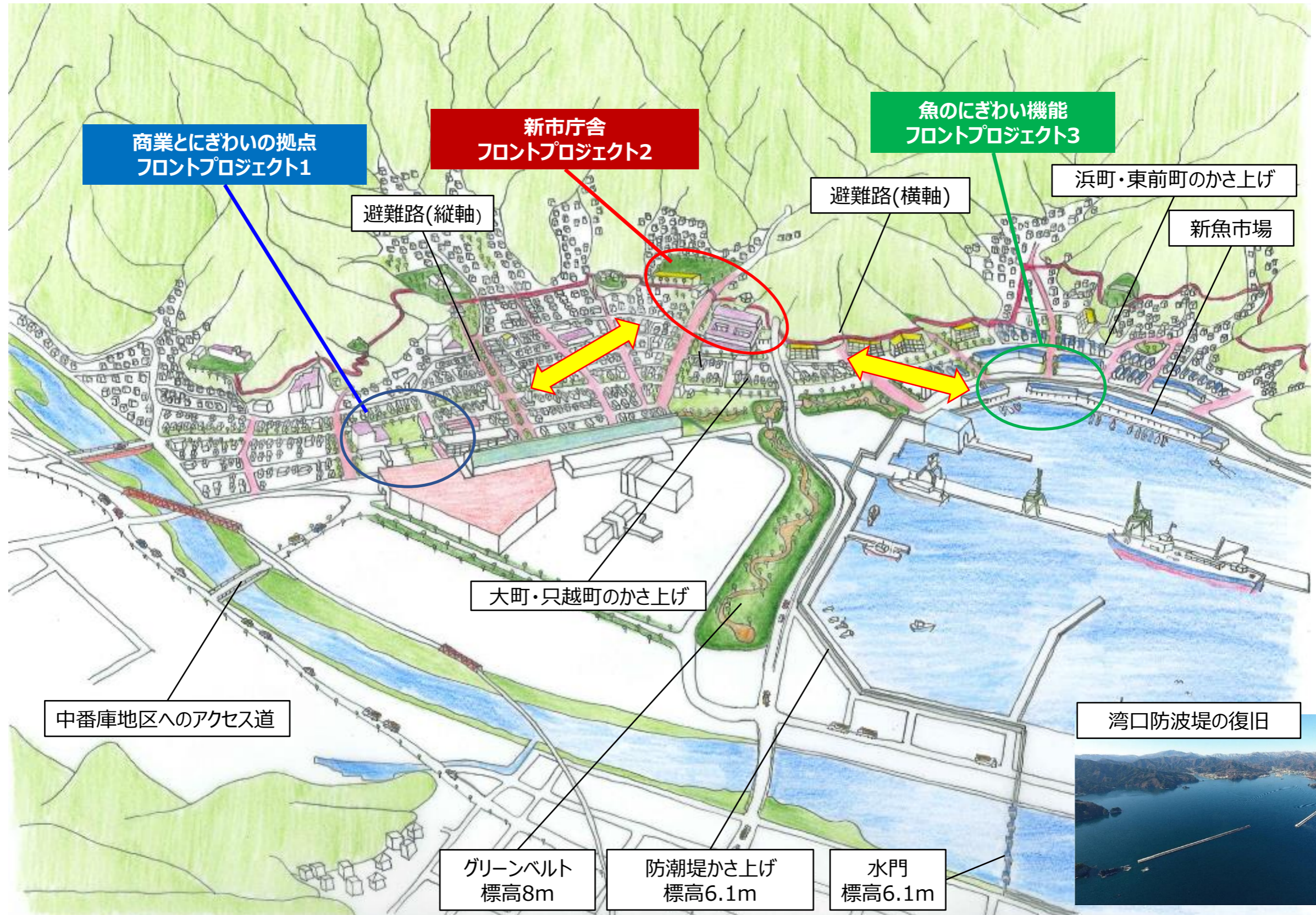


### ○漁村部

- 主に一戸建て住宅を整備（※市街地部も含め188戸整備）
- 設計や仕様等は、漁村部の住民（漁師等）の意見を取り入れて実施
- 将来的に空き部屋になることを回避するため、入居者に払下げを検討



# 中心市街地における多重防御のまちづくり



# 釜 フロントプロジェクト1の整備状況

公共施設と商業施設の効果的な配置により、商業とにぎわいの拠点となる新しい市街地の顔をつくり、周辺への投資を誘発させるプロジェクト

イオンタウン釜石

大町復興公営住宅5号棟  
平成29年3月供用開始

大町復興公営住宅4号棟  
平成28年10月供用開始

釜石市民ホール  
平成29年12月8日開館

釜石情報交流センター  
平成27年12月供用開始

釜石漁火酒場かまりば  
平成29年1月オープン

釜石大町駐車場  
平成26年3月供用開始

タウンポート大町  
平成26年12月オープン

大町広場  
平成27年7月供用開始

## 釜 フロントプロジェクト2の取組状況

- 東日本大震災で被災し、孤立した庁舎(第1庁舎は昭和29年の建設)を整備
- 場所は、現在よりも地盤が高い廃校となった小学校の跡地
- 『復興のシンボルとして釜石らしいまちづくりの拠点となる庁舎』を基本理念とし、令和7年度の完成を目指している



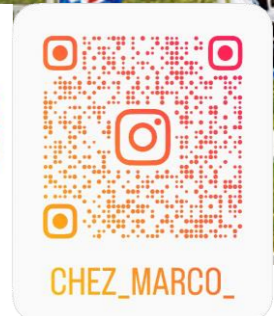
# 釜 フロントプロジェクト3 ～平成31年4月13日魚河岸テラス オープン～

- 釜石市臨海部周辺のにぎわい創出の拠点として「魚のまち釜石」を発信していく施設
- 2階飲食店では、広々とした自然に工業港が溶け込んだ釜石湾の景色を一望しながら地元の食材を使った食事を楽しむことができる



釜石湾を一望するゆったりとしたテラス  
全店オーシャンビューの4つの飲食店  
キッチンスタジオやイベントスペースも併設  
“海のまち釜石”の新名所がオープン

魚河岸  
テラス  
UOGASHI terrace



# 釜 発災後～これまでのまちづくり

## 復興まちづくり基本計画

## 第六次総合計画

応急・前期 H23～25  
被災状況に応じた  
復旧・復興

中期 H26～28  
希望や可能性を  
追求した復興

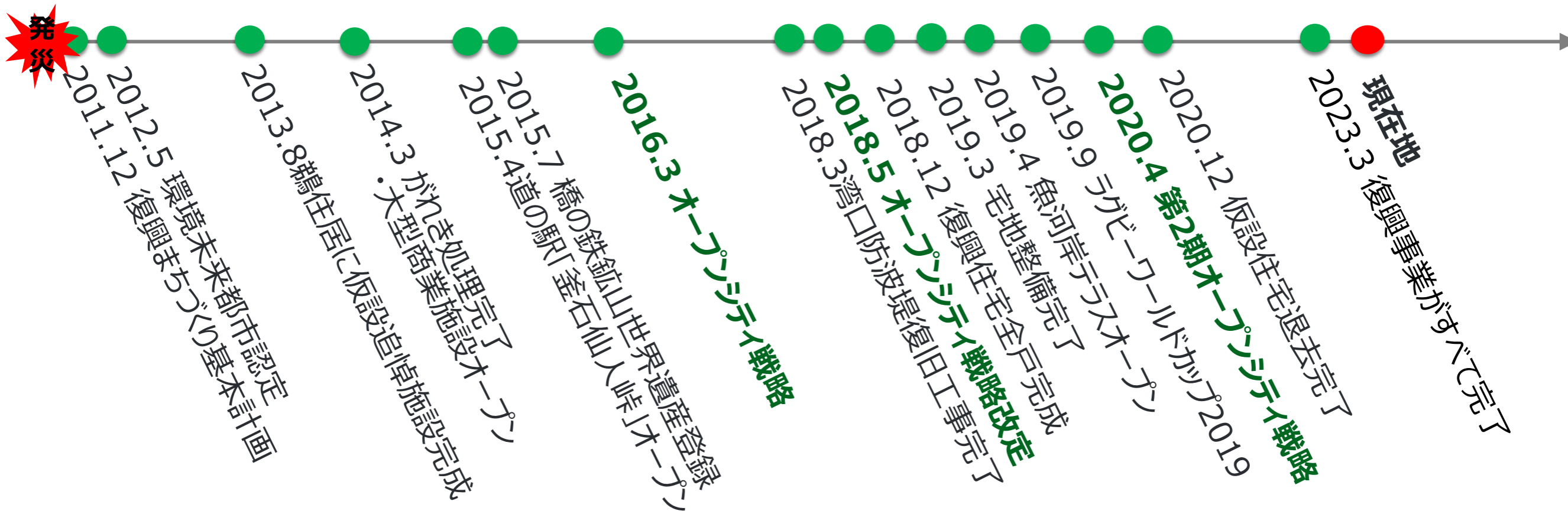
後期 H29～R2  
次世代に誇りうる取り組みにより、  
地域の新たな自立を目指す

R3～12  
一人ひとりが学びあい  
世界とつながり未来を創るまち

ハード復旧

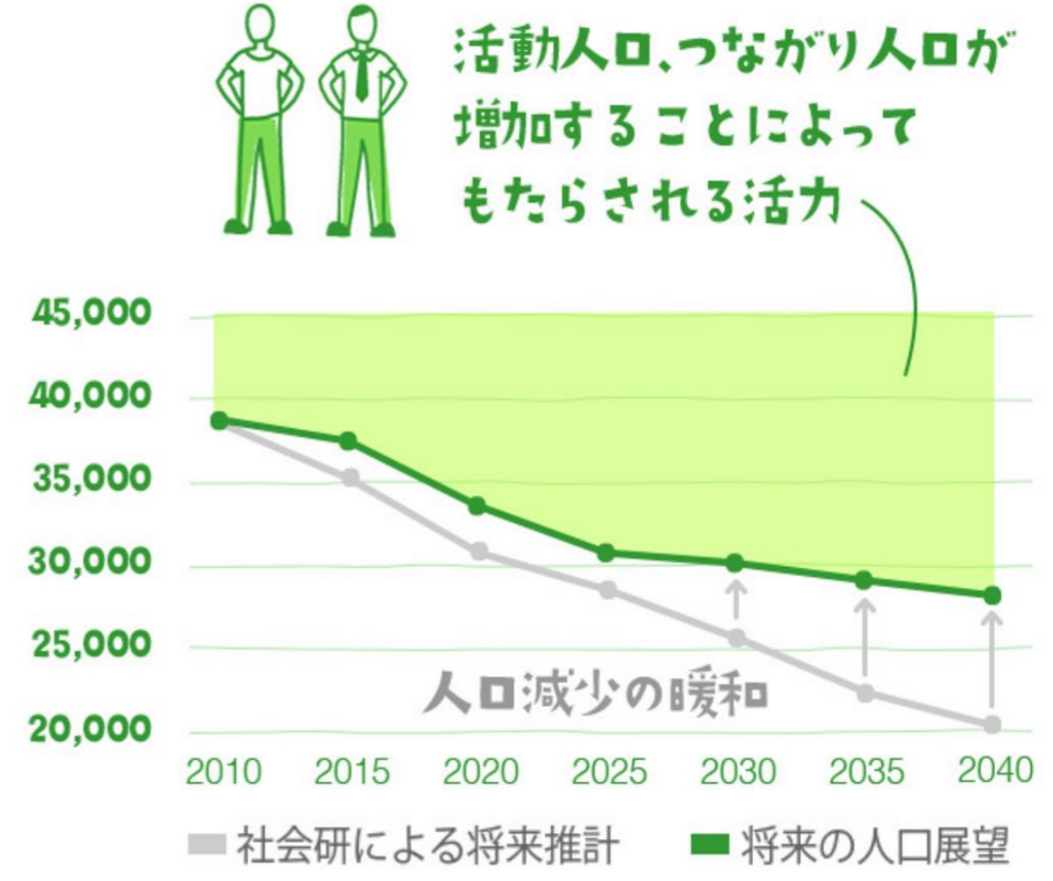
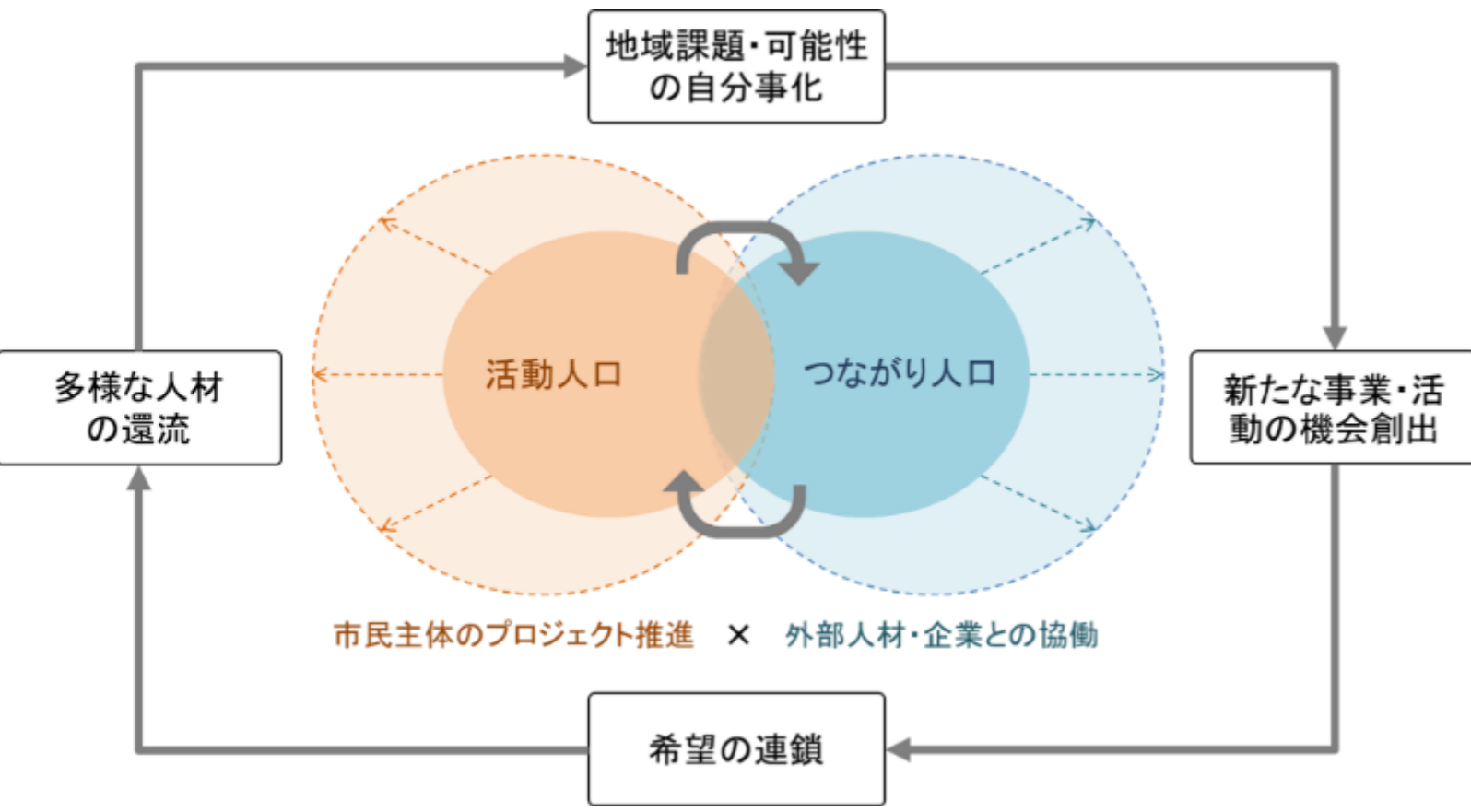
なりわい・くらし再生

持続可能性への挑戦



# 戦略の基本的な考え方：復興プロセスで得た最大の資産「つながり」を生かすまちづくり

- 現在、1年間に80万人もの日本人人口が減少している中、地方都市においては**人口減少に歯止めがかからない状況**
- **人口減少の各種緩和策を打ちながらも**、人口が減少したことによって「まちの活力」が失われないように、**つながり人口と活動人口との還流により新たなプロジェクトを創発していくことで、活力のあるまちづくりを目指す**
- 地方創生の文脈でも新たなつながり人口の創出に向けて取り組んでいく



**つながり人口 (関係人口) Connected Population** 観光客以上、移住者未満に関わりを有する人材・企業  
**活動人口 Active Population** コミュニティ活動・経済活動へ積極的に参画する市民

## 釜 取組状況：ワーケーションの推進

- 2020年5月、日本能率協会マネジメントセンターと「ワーケーション事業の実施を通じた地方創生及び働き方改革の推進」に関する包括連携協定を締結
- 企業からの研修型の受入れを中心に、釜石でしかできない「研修」「体験プログラム」を提供**
- 2021年10月にワーケーション事業に関する包括連携協定を4者で締結
- 同年、市内中心部に拠点施設として「ねまるポート」をオープン
- 参加者の宿泊費や飲食費といった地域消費額を生み出すとともに、プログラム満足度は95%を超えるなど相応の成果
- 都市部の企業や大学とのパートナーシップの構築により、ワーケーションやインターン等で多くの社会人や学生が当市を訪れており、**「学びの場」としての関心が高まっている**



戦略策定 / 地元産業マッチング  
/ 情報発信



施設運営 / プログラム運営企画  
宿泊飲食マッチング



不動産ノウハウ提供 / 企業マッチング  
マーケティング支援



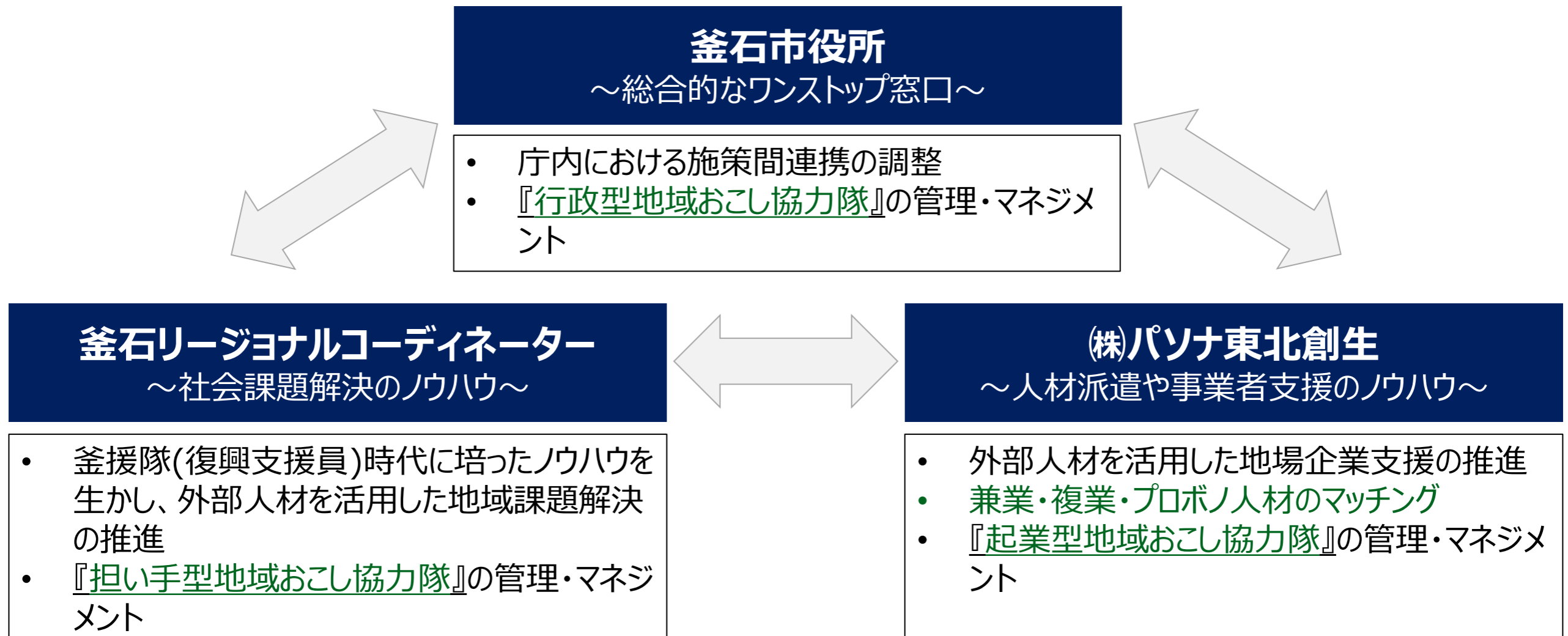
ワークプレイス整備のノウハウ提供  
構想策定支援





## 釜石市役所 取組状況：まちの人事部事業（令和3年度～令和5年度）

- 地域をひとつの大きな企業体と捉え、地域の『人材ニーズ』を集約し、地域課題の解決、地場企業の成長を促進する人材採用及びマネジメントを包括的に行う機能の構築を目指すもの（デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）を活用）
- 市内の企業における人材獲得は、生産年齢人口の減少、給与等の待遇向上の流れといった要因で熾烈な競争になっていくことが予想され、通年雇用の採用は厳しい状況になる可能性
- より人材ニーズを細分化、プロジェクトベースにして通年雇用ではない人材採用、活用を模索していく必要
- 生産年齢人口の還流によって、担い手不足や専門人材不足による課題改善を促し、地域の活力の維持を図るとともに、潜在的な移住者・定住者を増やし、当市を支えるつながり(関係)人口を増やす





## 取組状況：地域おこし協力隊の活動事例

### 自分の人生を全うする地方移住（総務省広報誌 令和5年12月号に掲載）

#### 協力隊に応募したきっかけは？

私は、「自分の人生を全うしているか」の問いに対してモヤモヤを抱えながら働いていた会社員でした。

一度きりの人生このままで良いのだろうか……という不安を抱えながら、ヒントを求めてご縁があった釜石を訪れました。その際に出会った方々のイキイキと活動されている姿に感化され、「僕もこの地域で、この地域の方々となら、自分の人生を全うできるかもしれない」と思い、釜石での移住を決意しました。

以前より興味を持っていた「農・食」に関連する地域おこし協力隊の募集情報を入手し、応募しました。

#### 日本初のトマトジュース完成

日本初となるすずこまのトマトジュースを製作しました。大好きなトマトジュースを作る過程が、誰かの勇気に繋がることを目指し活動しています。

第一弾の『いとまとドリンク』は127本販売し、2週間で完売。

第二弾は2023年11月より販売予定です。



#### YouTube活動 いとまとチャンネル／みっしー\*

モノができるまでの過程を知らずとも暮らすことができる便利な社会の中で、ゼロからモノづくりに関わり自分の人生を模索している過程を配信中。

トマト／トマトジュースができるまでの軌跡や築百年以上の古民家改修風景など、非効率さの中にある有意義な時間をまとめていきます。

※配信日：毎週土曜日18時45分



#### 三科 宏輔

出身地 神奈川県相模原市  
転出元 神奈川県相模原市  
前職 会社員  
活動期間 令和4年4月～



#### 地域資源の活用 すずこま（トマト）の栽培

有休農地を活用し、\*すずこま（トマト）を栽培しています。

トマトが大好きで、好きなものをゼロから作る過程に、生きていく上で大切な何かがあると思いい、栽培を始めました。分からないことばかりですが、来年度以降も規模を拡大しながら、大好きなトマトと向き合っていきます。

\*クッキングトマトと呼ばれる熱を通すとより甘く、色鮮やかになる品種。釜石では振興作物として力を入れている。



#### 今後の抱負・任用後の目標

私がモヤモヤしていた会社員時代から変わることできたのは、自己開示ができる場を協力隊を通じて見つけられたからだと思っています。そういう場としても機能できるように畑を作っていきたいと考えています。

また、つまずきながらも何かを実践している姿を通じ、誰かの不安が勇気になることを目指して、目の前のやりたいことを実行していきたいと思っています。

任用後の目標としては、私の象徴でもあるトマトジュースでもっと多くのつながりを作り続けていくこと、そのためにトマト栽培の安定化や加工場新設を検討しています。

今後もあり多くのひとこの喜びを分かち合っています。

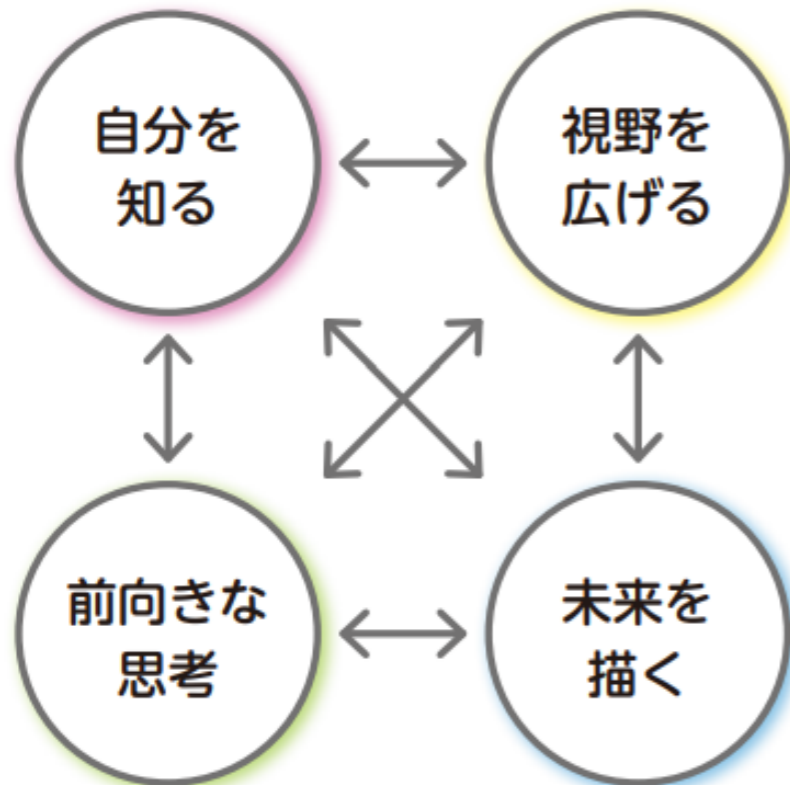


## 釜石コンパス 取組状況：釜石コンパス～次世代を担う高校生向けキャリア教育～

- 高校生が人生のセンパイである地域内外の大人から、生き方や働き方を学ぶプログラム
- 多様な大人たちとの出会いや交流が、これからの進路選択のヒントやきっかけになれば…との思い
- 講師の大人たちを「きっかけさん」と呼び、高校生が自分らしい一歩を踏み出すためのプログラムを提供
- 平成27年度から令和4年度末までに51回開催、生徒6,586人、きっかけさん932人が参加
- 87.4%の高校生が「進路や将来への意識の変化があった」、54.4%が「進路や将来への行動の変化があった」と回答

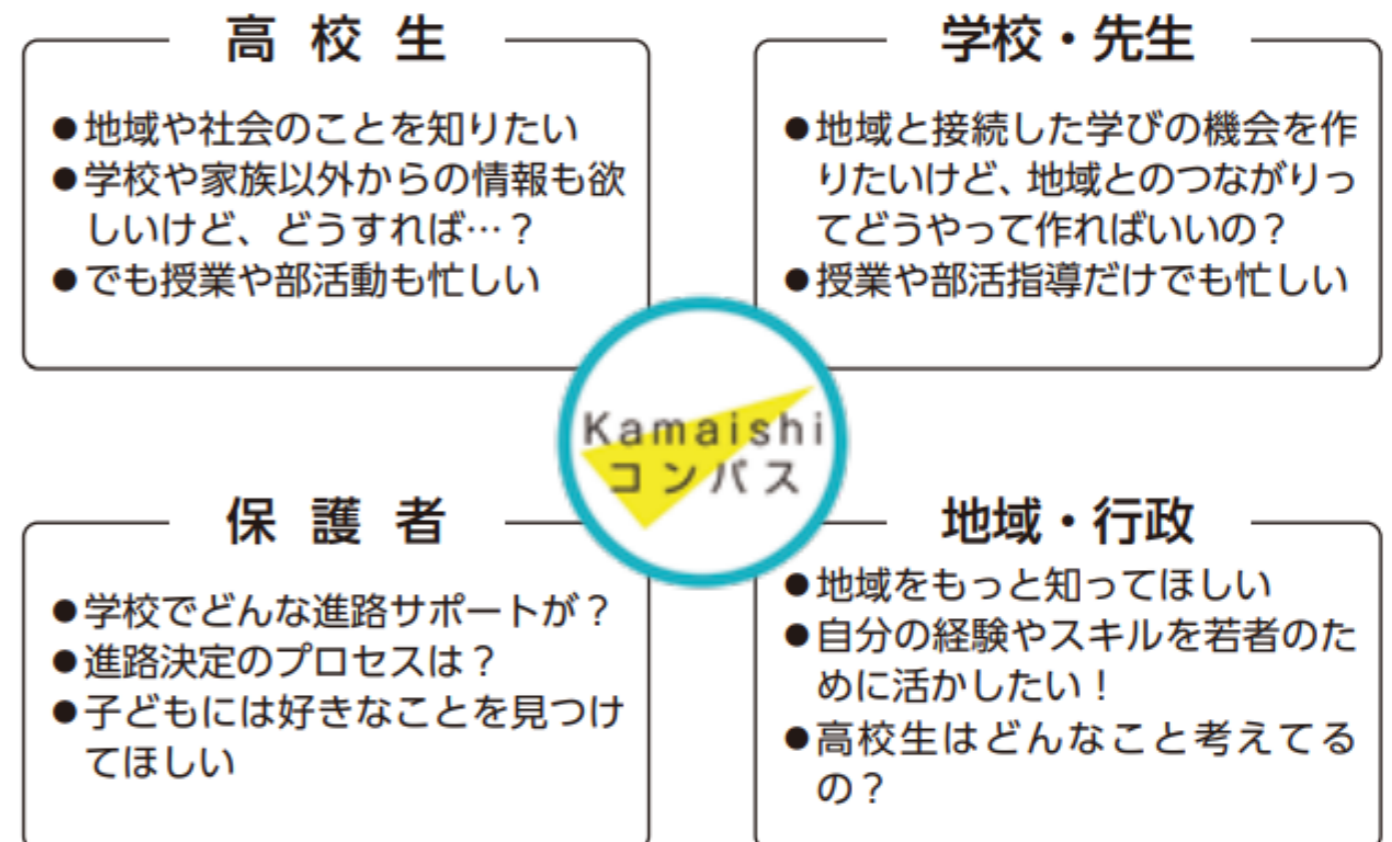
### 大切にしたい4つのこと

プログラムの基礎となる4つの要素を各回のプログラムに盛り込みながら、相互作用を生んでいきます。



### 釜石コンパスが生まれるまで

このプログラムは「高校生」「学校・先生」「保護者」「地域・行政」といった皆さんの思い・ニーズから2015年に誕生しました。





# 取組状況：釜石コンパス～次世代を担う高校生向けキャリア教育～

## 主なプログラム

### 対話セッション



コンパスの柱となるプログラム。グループで、きっかけさんと交流します。

### 1on1 セッション



きっかけさんに1対1で具体的な質問や相談が出来る時間です。

### ワーク



自己分析やプログラムの振り返りなどを、ワークシートを使って行います。

### 講演



初めてのコンパスや最終回の時などに、講演やレクチャーを実施します。

## 「きっかけさん」 に聞いてみた

UBS 証券  
青木 健治 さん



6年間、断続的に参加しています。子どもは親の鏡と言いますが、対話セッションで話していると、生徒たちは社会の鏡なのだと感じます。釜石や日本、世界の変化が、生徒たちの話や振る舞いの変化に表れているように見えるからです。とはいえ、生徒たちが自ら映し取れることには限りがありますので、対話セッションではそこに広がりを与えられたらと思っています。

釜石高校2年  
川崎 未祐 さん

「失敗は悪いことじゃない。反省し、その経験を次に生かせば、失敗は財産になる」ということを聞き、失敗を恐れずに挑戦することが大事だなと思いました。1on1セッションでもアドバイスしてもらった「大きいことを成し遂げようと思うよりも小さいことを一つ一つやっていくこと」を意識していきたいです。



釜石高校2年  
立花 陽菜 さん

親や先生に言いにくいことも話しやすいし、きっかけさんも自分のことをはっきりと知らない分、率直な意見を聞くことができ、自分の道を応援してくれました。

また、苦手な教科を使って進学したきっかけさんがいて、自分は好きな分野を使うことを主に考えていたけど、苦手な教科の先にもやりたい仕事があるかもしれないなと思いました。

釜石高校2年  
矢浦 望那 さん

前のコンパスでも自分がそれまで知らなかった仕事を聞いて、興味を持ち始めました。

好きなことを極めることも大事だけど、苦手なことに挑戦してみても分かることもあるよと言われて、そういう考え方もあるんだなと思いました。お話を聞いていて、自分自身のことも全然知らないなと思ったので、自分を知り、興味があることを明確にしていきたいです。

高 校 生 の 声

## 取組状況：テレワークの推進（令和4年度～令和5年度）

- 若年女性の働き方が多様化、結婚・出産・子育てを経ても“働き続ける”ことは当たり前の時代に
- しかし、非正規雇用が約50%、女性が働く環境について約25%が不満をもつなど、若年女性の定着・回帰への影響懸念
- 女性が自分らしく働ける地域社会の実現の必要性、働き方の選択肢を増やす
- テレワークは、自分の目標、ライフスタイルや特性に合わせて時間や場所にとらわれずに仕事ができることから、子育てと仕事の両立にマッチ
- テレワークにより子育てと仕事を両立するモデル人材を育成するためにテレワーカー育成プログラムを実施
- 令和4年度は16名、令和5年度は11名が参加、受講終了後に8名がテレワーカーとして登録
- ロールモデルに関する情報発信などにより「**移住(転出)なき転職(就業)**」の推進を目指す



市内の空き店舗をリノベーションした活動拠点

## CONCEPT ▶ 子育てと仕事をハッピーに！

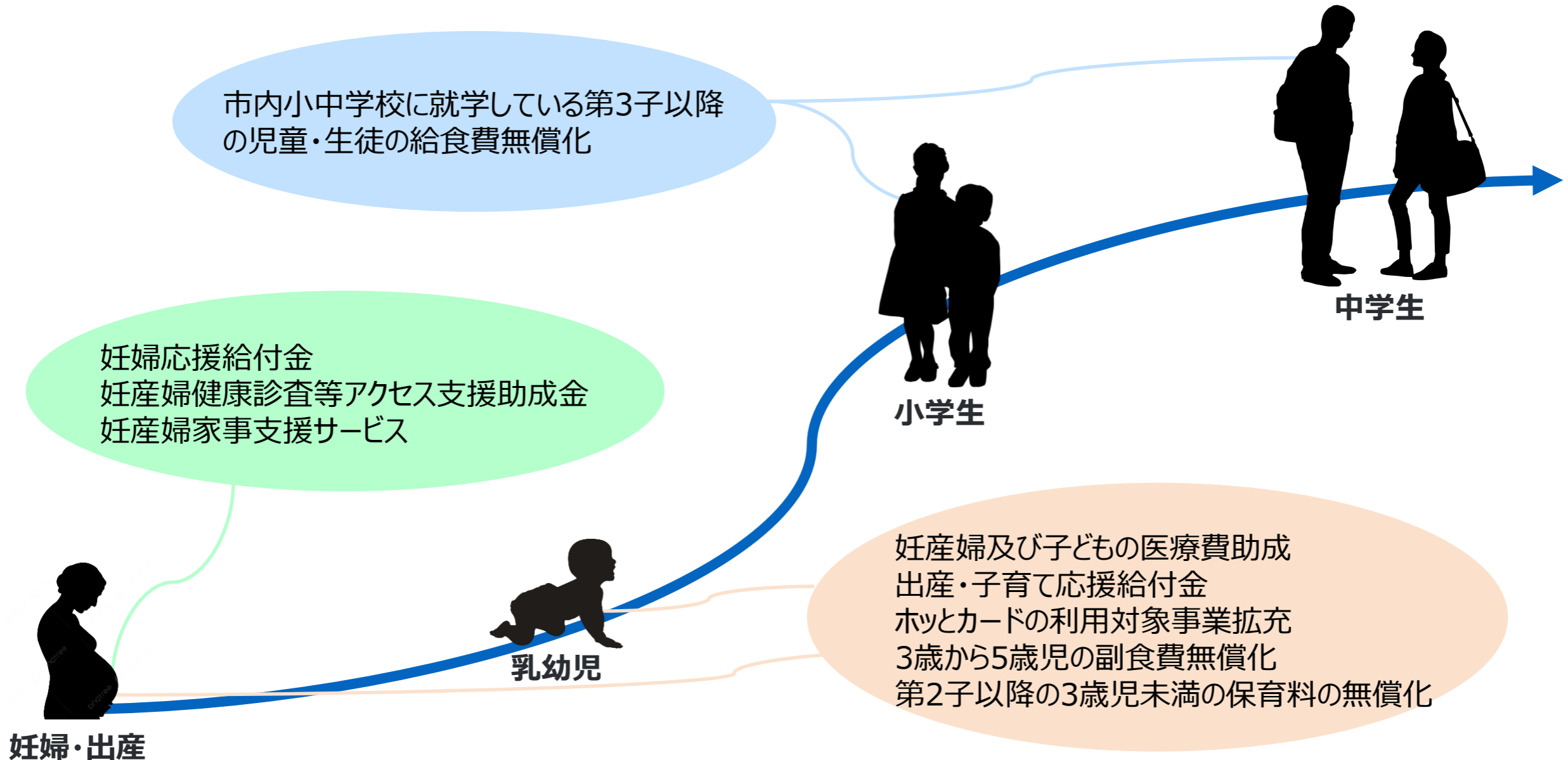
LIFULL FaMでは、子育て中のママが子育てと両立しながらキャリアアップを目指すことをサポートしています。





## 取組状況：令和2年度以降の市独自の子育て支援対策

- 出産や子育てに関する経済的負担を軽減し、安心して子育てできる体制を構築するための支援策を実施してきたところ
- 令和2年度から3歳から5歳児の副食費を無償化
- 令和3年度から妊娠時に3万円の一律給付（妊婦応援給付金）と、市外医療機関での健康診断や出産に要した交通費を支給（妊産婦健康診査等アクセス支援助成金）
- 令和4年度から妊産婦と子どもの医療費助成の所得制限の撤廃及び受給者負担の無償化
- 令和5年度から妊娠、出生後にそれぞれ5万円、合計10万円を給付（出産・子育て応援給付金）、第3子以降の児童・生徒の給食費の無償化



## 地方創生に関連した企業との連携協定

年月	パートナー企業	内容
2016.02	株式会社岩手銀行	地方創生に関する連携協定
2016.06	株式会社日立製作所、一般社団法人新興事業創出機構	地域の活性化に向けた取組に関する協定
2016.06	UBSグループ	「オープンシティ」実現のための多様性ある持続可能なまちづくりの推進に向けた協働宣言
2016.01	Airbnb	観光促進に関する覚書
2017.08	慶應義塾大学SFC	地方創生に関する連携協力協定
2017.12	株式会社LIFULL、楽天LIFULL STAY株式会社	空き家の利活用を通じた地域活性化連携協定
2018.04	楽天株式会社	包括連携協定
2018.06	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	地方創生・SDGsに関する連携協定
2020.05	株式会社日本能率協会マネジメントセンター	包括連携協定（ワーケーション事業の実施を通じた地方創生及び働き方改革の推進）
2020.07	ソフトバンク株式会社	地方創生に関する連携協定
2021.10	日鉄興和不動産株式会社、株式会社オカムラ、株式会社かまいしDMC	ワーケーション事業の推進に関する包括連携協定
2022.01	独立行政法人国際協力機構(JICA)東北センター	連携覚書（開発途上地域に対する国際協力の推進、国際協力を通じた釜石市の振興）
2022.02	株式会社LIFULL	子育てと仕事を両立させたママの働き方創出に向けた連携協定

## 釜 企業版ふるさと納税（令和3年度～）の状況

- 企業版ふるさと納税は、地方公共団体が実施する地方創生事業に対して、企業が寄附を行った場合に税額控除を受けられる制度
- 市は、この制度を活用して企業・法人の皆様からの寄附を募り、「第2期釜石市オープンシティ戦略」に掲げる取組を推進
- 釜石市が取り組む地方創生事業は、①人材を還流させるまちの人事部機能構築事業、②ライフステージに応じた少子化対策・子育て支援事業、③外貨の獲得や経済の地域内循環を促進させる事業、④あらゆる人材が活躍できる地域社会づくり事業、⑤官民共創によるオープンイノベーション推進事業

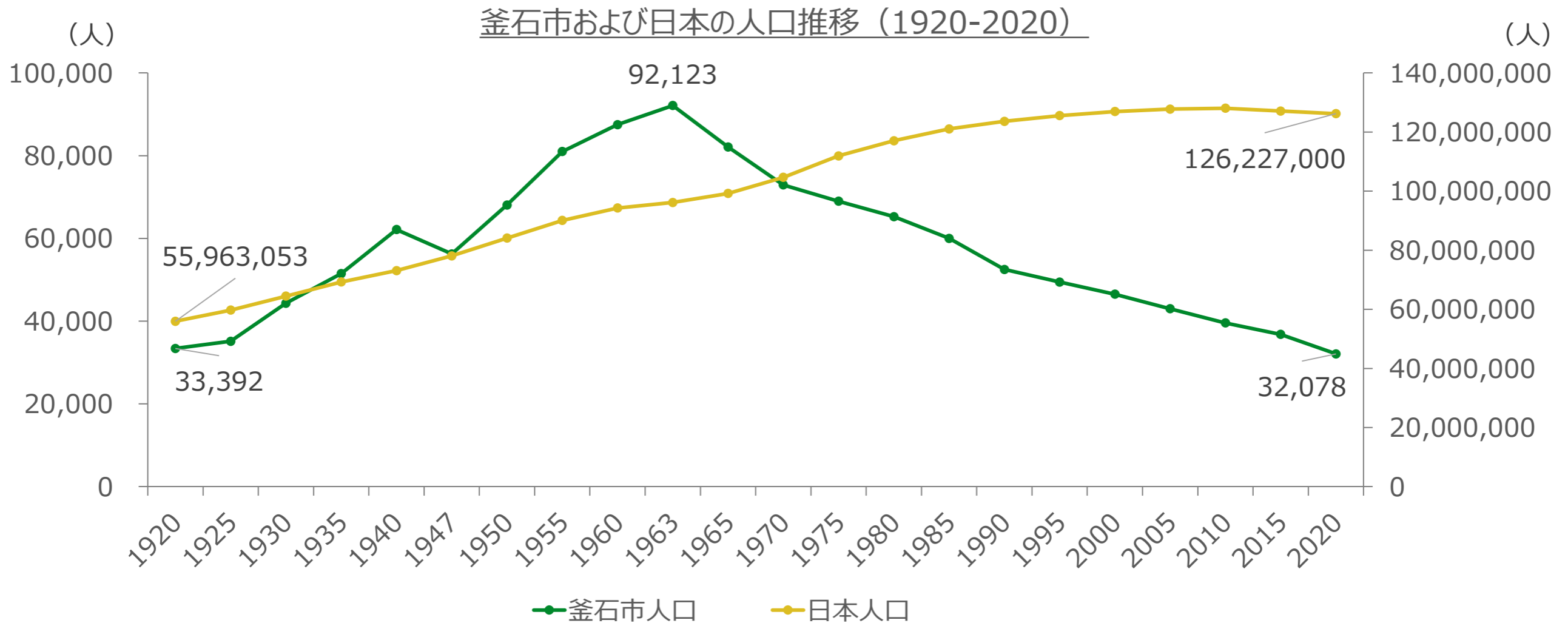
### これまでの寄附実績

企業名	寄附金額	寄附活用事業
東武トップツアーズ(株)	3,000,000	あらゆる人材が活躍できる地域社会づくり事業
(株)エネクスライフサービス	1,000,000	外貨の獲得や経済の地域内循環を促進させる事業
トヨタカローラ岩手(株)	3,000,000	外貨の獲得や経済の地域内循環を促進させる事業
(株)パソナ	10,000,000	あらゆる人材が活躍できる地域社会づくり事業
(株)オヤマ	10,000,000	あらゆる人材が活躍できる地域社会づくり事業
(株)日本能率協会マネジメントセンター	1,000,000	外貨の獲得や経済の地域内循環を促進させる事業
(株)事務機商事	100,000	外貨の獲得や経済の地域内循環を促進させる事業
新日本設計(株)	100,000	外貨の獲得や経済の地域内循環を促進させる事業
(株)オカムラ	100,000,000	外貨の獲得や経済の地域内循環を促進させる事業
日鉄興和不動産(株)	100,000,000	外貨の獲得や経済の地域内循環を促進させる事業
(有)毎日元気	10,000,000	外貨の獲得や経済の地域内循環を促進させる事業
トヨタカローラ岩手(株)	3,000,000	外貨の獲得や経済の地域内循環を促進させる事業
(株)日本能率協会マネジメントセンター	1,000,000	外貨の獲得や経済の地域内循環を促進させる事業
(株)オヤマ	10,000,000	あらゆる人材が活躍できる地域社会づくり事業

※ この他、非公開の企業あり

# 釜石市の人口推移

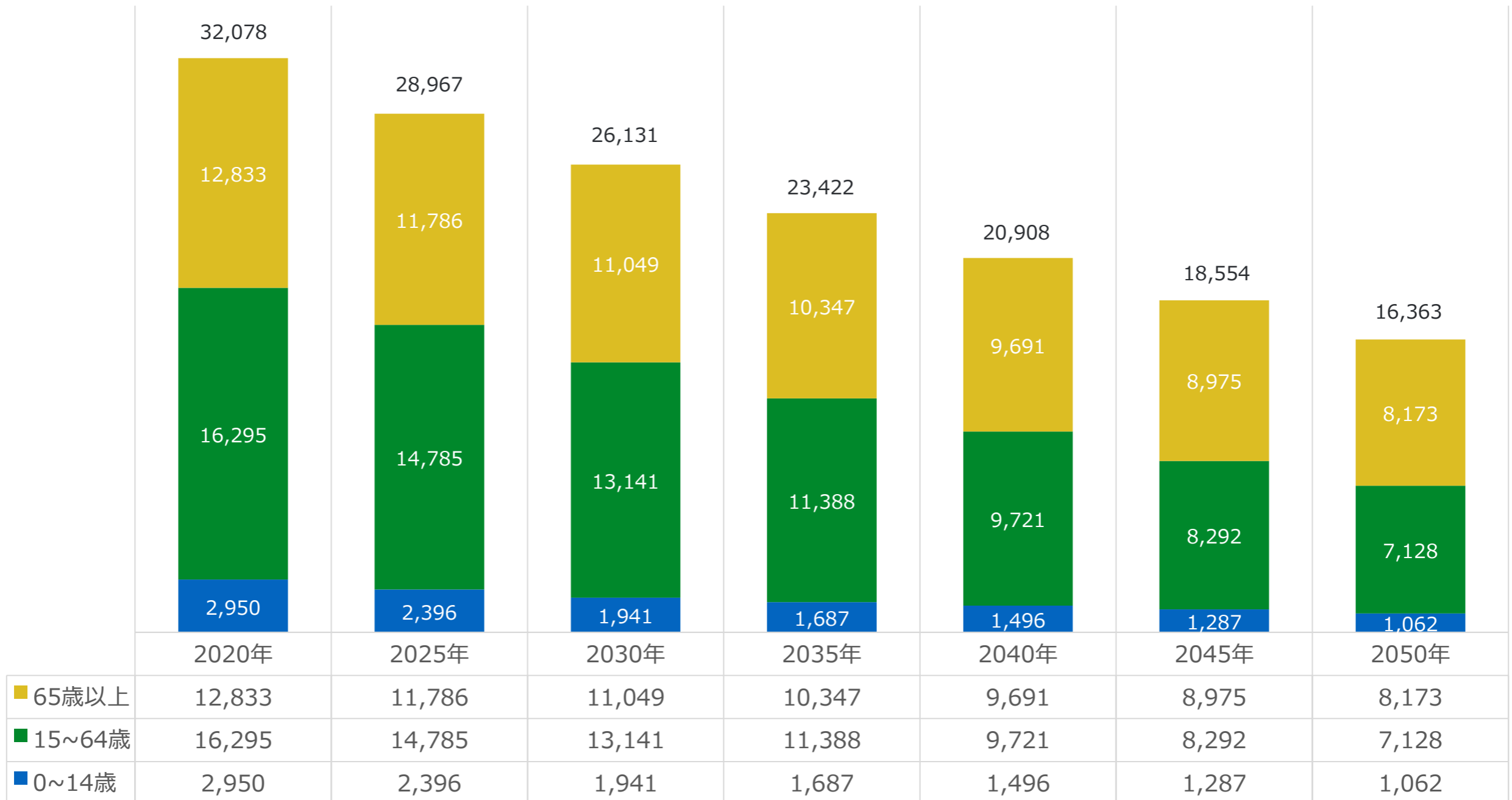
- 1963年（昭和38年）の92,123人をピークに、急激な人口減少が進行
- 背景としては、鉄鋼業の合理化・縮小、就業の場を求めた首都圏・都市部への人口流出、大学進学率の上昇、日本全体で低下する合計特殊出生率、東日本大震災による地域課題の顕在化など、複合的要因が考えられる
- 2023年12月末現在の人口29,915人は100年前を下回っており、国全体で急激な人口減少・少子高齢化が進行する中で、釜石らしい持続可能なまちづくりのあり方を探求していくことが求められている



出所：  
 国勢調査より作成（1920～2020年）  
 住民基本台帳より作成（釜石市・1963年）  
 総務省統計局より作成（日本・1963年）

# 将来推計人口

- 2050年人口は16,363人で、2020年比で49%減少（ほぼ半減）八幡平市の52.8%に次ぐ県内14市中2番目の減少率
- 2050年の高齢化率は49.9%
- 出生数に大きな影響がある若年女性（20～39歳）は、2020年の2,307人から2050年には881人に減少



## 釜石 第2期オープンシティ戦略の振り返り

### 戦略（2020～2024年度）に定めたKPIの状況

		2020	2021	2022	2023	
<b>a.社会減数</b>	戦略期間内に、社会減数をマイナス107人以下に抑える（2018年はマイナス356人）	-276	-302	-180		資料：市民課
<b>b.出生数</b>	戦略期間内に、出生数170人を維持する（2018年は179人）	135	140	117		資料：市民課
<b>c.観光客入込数</b>	戦略期間内に、84.85万人を維持する（2018年は51.6万人）	51.2	49.0	59.8		資料：(株)かまいしDMC「釜石市観光来訪調査」
<b>d.一人あたり市民所得</b>	戦略期間内に3,100千円を目指す（2016年は2,960千円・県下4位）	2,801	2,697			資料：岩手県市町村民経済計算
<b>e.大切な人を地域に呼び込みたいと考える市民の割合</b>	戦略期間内に、40%以上を目指す（2018年調査では約31%）	-	-	-	39.9	資料：総合政策課「市民意向調査」

- 釜石市オープンシティ戦略(2015～2019年度)では、地域内外の「つながり」を育み、人口減少の緩和を図るとともに、活力あるまちづくりの実現を目指し、官民連携を推進する過程で様々なプロジェクトが生まれた
- 第2期オープンシティ戦略(2020～2024年度)では、市の行財政運営の最高指針である第六次総合計画の策定が並行して進捗していたことを踏まえ、総花的に施策を記載することはせず、選択と集中によって芽の出てきた取組を強化しながら、国や社会の動向を注視し、多様な主体と連携しながら、人口減少対策と先を見据えた取組を推進してきた
- 人口ビジョンで展望した2040年時点で27,000人程度の人口規模は困難であり、復興事業の完了に伴い、今後も人口減少・少子化が進展していくものと考えられる



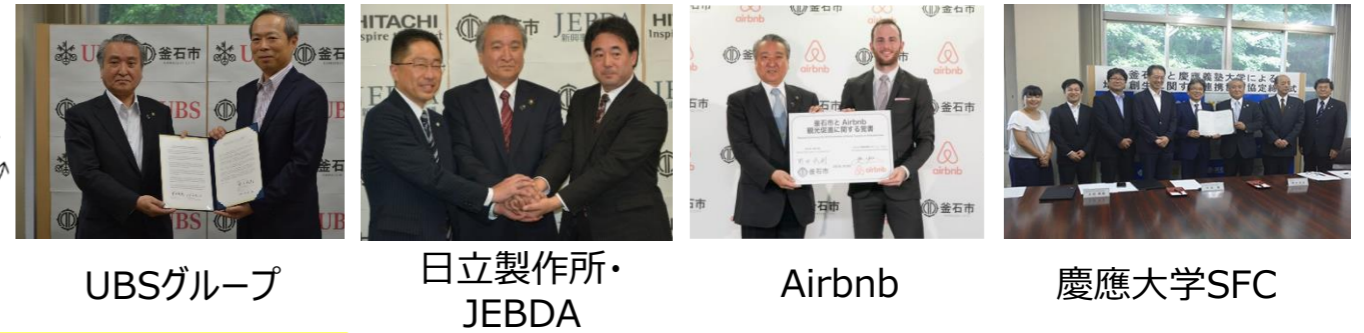
# 地方創生 = 釜石に暮らす/関わる可能性を最大化するエコシステムを構築すること

地域外

個人に対する交流・移住・起業の機会提供  
(ミートアップ/インターン/UIターン)



企業・大学とパートナーシップ (一部抜粋)



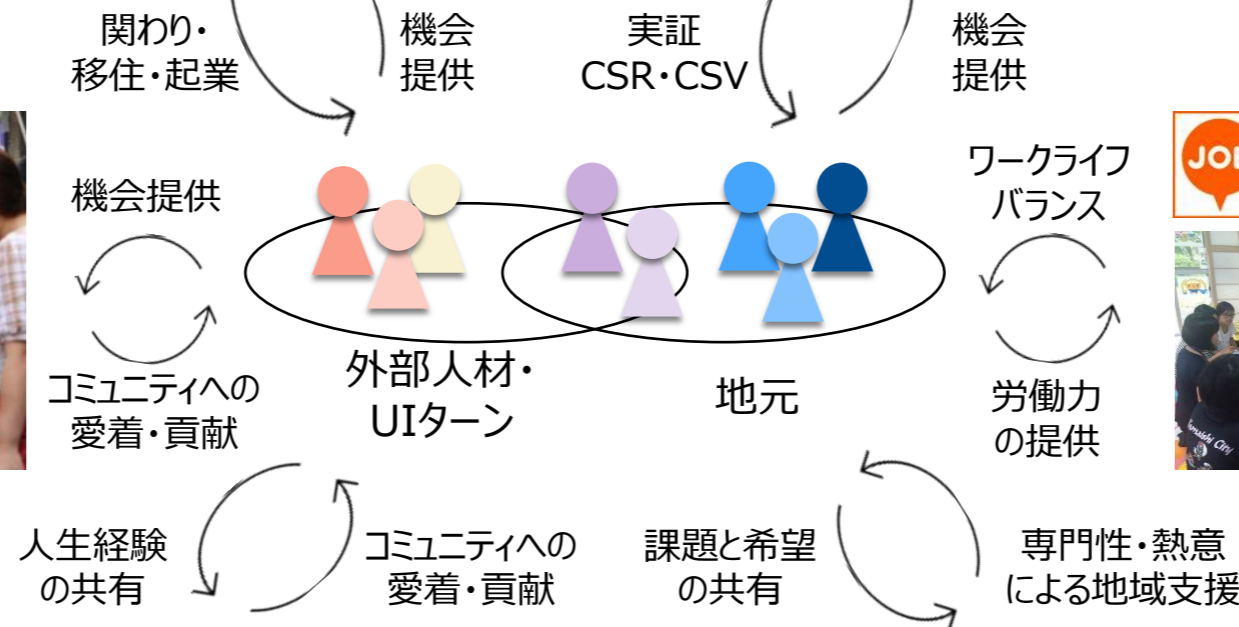
複業・兼業・プロボノ

ワーケーション・企業研修

コミュニティデザイン (釜石〇〇会議)



フレキシブルワーク推進

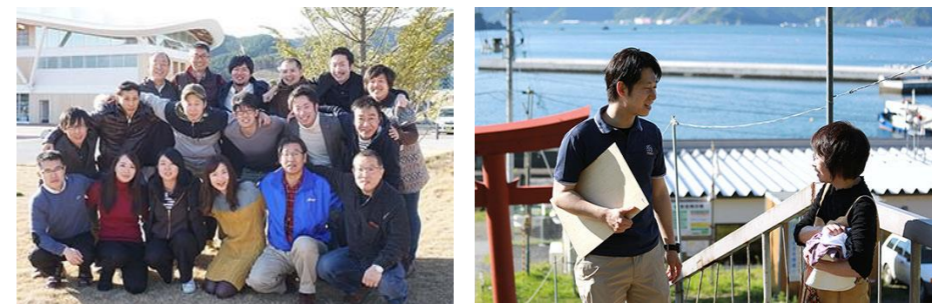


ママさんテレワーク

次世代育成 (釜石コンパス)



地域おこし協力隊



地域内

# 釜石市オープンシティ戦略の改訂

- 現在、人口減少社会を迎え、地方の過疎化や地域産業の衰退などが大きな課題となっている
- 近年、テレワークの普及や若年層の地方移住への関心が高まるなど、社会情勢は大きく変化。また、デジタル技術は急速に進歩し、人々の生活に広く活用される段階に移行しつつある。今こそ、これまでの地方創生の取組にデジタルの力を活用して加速させ、デジタル田園都市国家構想が掲げる「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す絶好の機会
- 国と地方は役割を分担しながら、東京圏への過度な一極集中を是正して多極化を図り、地方の社会課題解決を成長の原動力とし、地方から全国へとボトムアップにつなげる
- デジタル田園都市国家構想総合戦略は、デジタル田園都市国家構想を実現するために、各府省庁の施策を充実・強化し、施策ごとに2023年度から2027年度までの5か年のKPI（重要業績評価指標）とロードマップ（工程表）を位置づけたもの
- 当市も、地域が抱える社会課題などを踏まえて、地域の個性や魅力を生かす地域ビジョンを掲げた「地方版総合戦略」を策定（2025年度の予定）



# 釜 地方創生 = 釜石に暮らす/関わる可能性を最大化するエコシステムを構築すること

## 顕在化する地域社会の「課題」を、多様な人材・企業が関わることのできる「余白」に

### 地域交通のリ・デザイン

MaaS等のデジタル技術の活用等により、持続可能で利便性の高い地域公共交通ネットワークを再構築

自動運転バスの運行



### 遠隔医療

住民に身近な場所を活用したオンライン診療や服薬指導を推進

医療機器装備の移動診察車



### こども政策

居住地に関わらず、切れ目のない医療と母子保健サービスが受けられる環境の実現を目指す

保健師等とのオンライン相談



### 地方創生テレワーク

活力ある地域づくりにつながる地方創生テレワークの導入・定着、「転職なき移住」を推進

空き蔵を活用したサテライトオフィスの整備



### 教育DX

地域独自の学習コンテンツの開発、オンラインによる学校間交流・教育活動の実施などの教育DXを推進

オンラインによる遠隔合同授業



### 観光DX

誘客を促進するため、受入環境の整備とともに、移動や購買データ等の高度活用など観光DXを進めます

アプリを活用した混雑回避・人流分散



# 第六次釜石市総合計画によるまちづくり

- **当市の行財政運営の最高指針**として、基本構想に定められた将来展望及びそれを達成するための基本目標を具体化するため、各分野における**具体的施策**を総合的かつ体系的に明らかにするもの
- 計画期間は令和3(2021)年度から12(2030)年度

## 目指す釜石の将来像

10年後のまちのあるべき**状態**を表す将来像

**一人ひとりが学びあい 世界とつながり未来を創るまちかまいし**

10年後のまちのあるべき姿を実現するための**姿勢**を表す将来像

**～多様性を認めあいながら トライし続ける不屈のまち～**



- 東日本大震災からの復興やラグビーワールドカップ 2019™ 日本大会岩手・釜石開催のプロセスにおいて、日本中・世界中との**つながり**を育む機会に恵まれた。これらを生かし、更に新たな世界を広げることで、一人ひとりの可能性、地域の可能性を広げ、希望が連鎖し、活力にあふれる未来を創り続ける
- 将来像に掲げる「学ぶ」とは、「力を新たに身につけ、新たな世界を広げること」。一人ひとりが学びを通じて成長する喜びを感じ、学びあうことによってより多くの心に火を灯し、やがて地域全体に広がることで、学ぶこと即ち「新たな世界を広げること」の幸せを実感できる地域の構築を目指す
- 様々な人、様々な生き方や働き方を尊重し、多様な価値観を認め合うこと、様々なことに挑戦し、決してあきらめないことを市民の基本姿勢としながら、時代の変化にしなやかに対応し、「一人ひとりが学びあい 世界とつながり未来を創るまちかまいし」の実現に向け、全市民参加で取り組んでいく

### まちづくりの基本目標

あらゆる人の幸せをみんなで考えつくるまち

人と自然が共存し安心して暮らせるまち

未来をつくる人と産業が育つまち

地域と人のつながりの中でみんなが育つまち

過去に学びみんなが命を守れるまち

## 第六次釜石市総合計画によるまちづくり

### 計画の推進

- 基本構想を推進し、将来像を実現していくためには、少子高齢化と人口減少、市民ニーズの多様化、厳しい財政状況などを踏まえながら、取組を進めていく必要
- このため、第六次釜石市総合計画においては、市民と行政による協働のまちづくりを進めるとともに、相乗効果を生む多様な連携と交流の推進を図り、徹底した行財政改革を進め、社会情勢や経済状況の変化に対応できるまちづくりに努める

#### 全市民参加でつくるまち ～協働によるまちづくりの推進～

- 全ての人がまちづくりに参画し、希望にあふれたまちを目指すため、これまで築いてきた各地区応援センター及び地域会議を中心に、自助・共助・公助による地域づくりを一層推進。また、行政、企業、職能団体、NPO、市民団体等多様な主体がそれぞれの価値観・役割に応じて、テクノロジー等も活用しながら、まちについてともに考え、ともに活動する環境の構築を目指す

#### 多様な連携と交流によるまち ～地方創生・多文化共生・広域連携の推進～

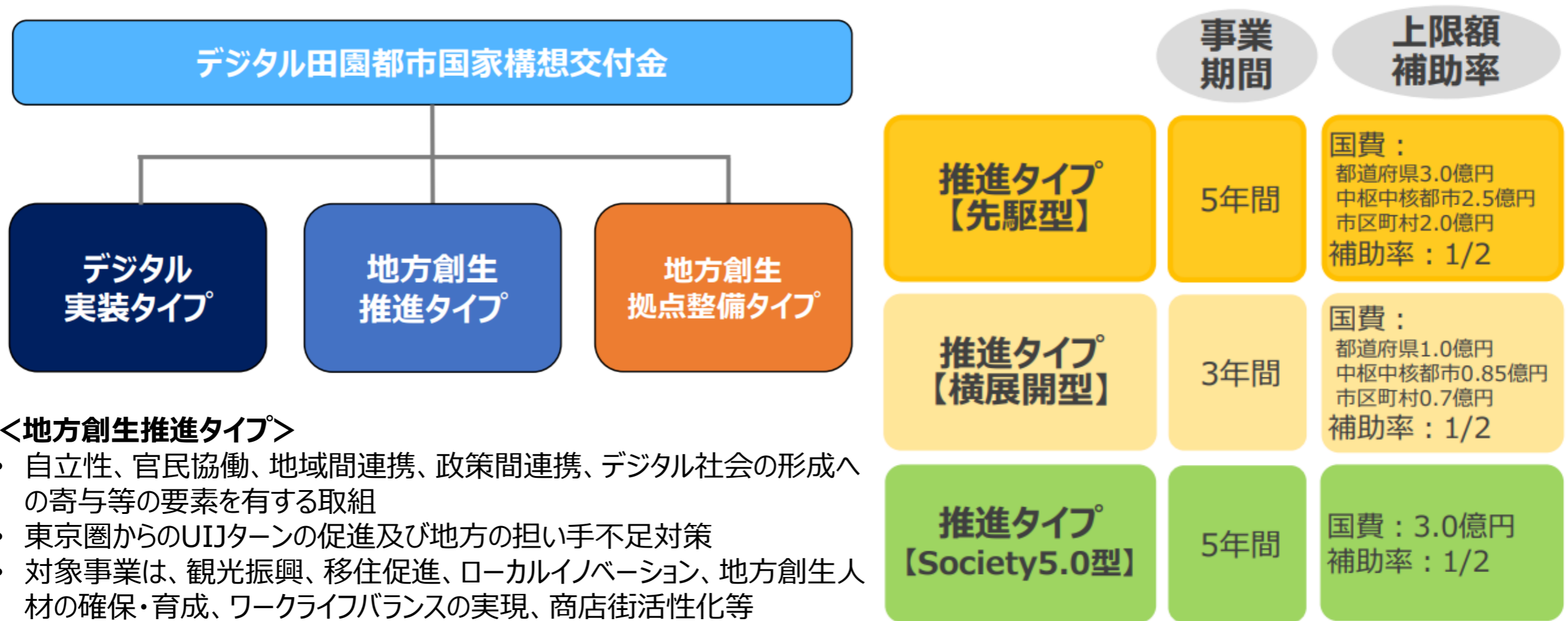
- 釜石市オープンシティ戦略の基本理念である「市民一人ひとりが役割を持つ、真に開かれたまち」の実現に向け、市内外の多様な人々とのつながりにより新たな事業機会やコミュニティが生まれ、希望が連鎖し、活力につながる地域社会の形成を目指す
- 異なる考えや意見に寛容で、かつ変化や困難を受容する再起力の高い開かれた社会の構築を目指すとともに、東日本大震災後大きく進展した交通ネットワークや多様なつながりを生かし、周辺自治体をはじめ様々な連携により、三陸の交流拠点として地域の魅力を高める取組を推進

#### 効率的・安定的な行財政運営ができるまち ～行財政改革の推進～

- 一層厳しくなる財政状況を踏まえ、実施する事業をより慎重に選択するほか、既存施設の有効活用や、必要性を見極めた施設の統廃合を進める。また、多様化、複雑化する市民ニーズや変わりゆく時代に対応するため、新市庁舎を整備し、先端技術やテクノロジーの活用等による業務改善に努め、戦略的な行政運営の下、組織全体の生産性を向上させていく

# デジタル田園都市国家構想交付金の活用

地方の社会課題解決や魅力向上の取組を深化・加速化する観点から、地方公共団体が策定した地方版総合戦略に位置付けられ、地域再生計画に記載された地方創生に資する取組を支援




### <地方創生推進タイプ>

- 自立性、官民協働、地域間連携、政策間連携、デジタル社会の形成への寄与等の要素を有する取組
- 東京圏からのUIターン促進及び地方の担い手不足対策
- 対象事業は、観光振興、移住促進、ローカルイノベーション、地方創生人材の確保・育成、ワークライフバランスの実現、商店街活性化等

令和6年度に交付申請した事業は次のとおり（新規2件・継続2件）


# 事業概要【釜石オープン・フィールド・カレッジ推進事業】

新規

申請者	岩手県釜石市	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6～R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	45,000千円 (15,000千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野 (詳細)	移住促進・地方創生人材の確保・育成等の人材分野
目的 (効果)	<p>東京大学をはじめとする圏域内外の高等教育機関等との連携を図りながら、<b>市全体が学びの場となる「釜石オープン・フィールド・カレッジ」を構築</b>し、様々な学びの場を創出することで、当市の<b>未来を担う人材の育成</b>や、あらゆるライフステージに応じた学びの場の提供に加え、地域外の大学生や社会人を呼び込むことで、新たな「つながり」を創出し、<b>持続的な交流人口の増加</b>を図るもの。</p>		
事業概要・ 主な経費	<ul style="list-style-type: none"> <li>①釜石オープン・フィールド・カレッジ計画策定 ・コンセプト策定委託料 1,000千円</li> <li>②釜石オープン・フィールド・カレッジ運営体制強化 ・地域コーディネーター育成研修経費、協議会の運営経費、専門家誘致経費等 1,000千円</li> <li>③持続可能な地域づくりモニタリング ・観光来訪調査、教育意識調査等 2,500千円</li> <li>④フィールドスタディプログラムの造成 ・各種体験プログラムの造成、圏域内外の大学と連携した授業プログラム構築、共同イベントの構築等 4,000千円</li> <li>⑤釜石オープン・フィールド・カレッジプロモーション ・ウェブサイト構築、プラットフォーム構築経費等 6,500千円</li> </ul>		
KPI	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域へのUIターン数 (当該年度目標値5人)</li> <li>②プログラム活用者数 (当該年度目標値10人)</li> <li>③プラットフォーム登録者数 (当該年度目標値50人)</li> <li>④再訪希望者数 (当該年度目標値45人)</li> </ul>		<p>関連URL</p> <p><a href="https://www.city.kamaishi.iwate.jp/">https://www.city.kamaishi.iwate.jp/</a></p>

# 事業概要【新たな地域水産物を活用した「さかなのまち釜石」活性化事業】

新規

申請者	岩手県釜石市	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	令和6～8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	34,701千円 (11,567千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野 (詳細)	農林水産 (しごと創生)
目的 (効果)	<p>①海面魚類養殖に取り組む新規経営体の創出などに取り組み、雇用の受け皿の確保を目指す。</p> <p>②若者がまちの魅力を再認識することで、地元への若者の地元就職率の向上を図り、人口流出に歯止めをかける。</p>		
事業概要・ 主な経費	<p>○ブランド化に向けたPR委託費 4,000千円</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光による集客可能性のセミナー</li> <li>・商品開発・磨き上げ (ワークショップ形式)</li> <li>・サクラマスフェア開催</li> </ul> <p>○サクラマス種苗開発及び新規経営体への指導・監督</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飼育池維持費 1,250千円</li> <li>・稚魚飼育管理費 2,437千円</li> <li>・育種飼料代 780千円</li> <li>・共通経費 2,700千円</li> <li>・養殖事業者指導 400千円</li> </ul>		
KPI	<p>①釜石市魚市場水揚げ高 (当該年度目標値11.5億円)</p> <p>②養殖水揚げ量 (当該年度目標値175トン)</p> <p>③商標使用申請件数 (当該年度目標値5件)</p> <p>④サクラマスフェア販売食数 (当該年度目標値500食)</p>		<p>関連URL</p> <p><a href="https://www.city.kamaishi.iwate.jp/top.html">https://www.city.kamaishi.iwate.jp/top.html</a></p>

# 事業概要【釜石市雇用・定住総合サポート事業】


継続

申請者	岩手県釜石市	初回採択回	令和3年度第1回募集
事業計画期間	R3～R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	168,051千円 (32,353千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野 (詳細)	移住促進・地方創生人材の確保・育成等の人材分野
目的 (効果)	雇用と定住の総合支援拠点として設置する「しごと・暮らしサポートセンター」を拠点に ・生産年齢人口の流出を抑止し、地元定着率を向上させるとともに、域外からの流入人口の増加を目指す ・豊富な経験を有する人材が、個性と能力を活かし、ワークライフバランスの整った自分らしい働き方・暮らし方ができるまちを実現する		
事業概要・主な経費	<p>○移住希望者、求職者及び地域事業者等を対象とした各種相談対応及び個別支援並びにセミナー、イベント等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援・イベント等業務 (委託料) 20,050千円</li> <li>・東京サテライト賃借料 (負担金) 600千円</li> </ul> <p>○雇用・定住総合サポート事業運営協議会の設置・運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会開催経費 (報償費、消耗品費、通信運搬費) 120千円</li> </ul> <p>○市内商業施設内に、雇用就業・移住定住のワンストップ窓口、関係機関連携及び情報発信を担う総合支援拠点「しごと・暮らしサポートセンター」を設置・運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設賃借料・光熱費等 (賃借料) 10,588千円</li> <li>・施設維持管理経費 (消耗品、使用料、保険料) 679千円</li> </ul> <p>○移住検討者を対象に、本市への移住の具体的な検討を促すためのお試し移住事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お試し移住住宅運営経費 (消耗品、光熱水費、通信運搬費) 316千円</li> </ul>		
KPI	①本市への移住定住者数 (当該年度目標値20件) ②本市での就業者数 (当該年度目標値100人) ③当事業利用者数 (当該年度目標値500件)	関連URL	・釜石市 ( <a href="http://city.kamaishi.iwate.jp">city.kamaishi.iwate.jp</a> ) ・しごと・暮らしサポートセンター(就労・UIターン・空き家利活用相談)   釜石市 ( <a href="http://city.kamaishi.iwate.jp">city.kamaishi.iwate.jp</a> )



# 事業概要【健康寿命日本一へ向けた かまいし はじめの一步プロジェクト】

継続

申請者	岩手県釜石市	初回採択回	令和4年度第1回募集	
事業計画期間	R4～R6年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	22,622千円 (6,237千円)	
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野 (詳細)	働き方改革	
目的 (効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康寿命の延伸・働き世代の健康意識改革やワークライフバランスの確立へ向けて、<b>生活習慣の改善</b>を図る。</li> <li>・<b>企業・事業所の健康づくりを推進</b>するため、働き世代の生活習慣改善へ向けた職域へのアプローチを図る。</li> <li>・働き世代の行動変容を促すため市内スポーツクラブ及び市内スポーツトレーナーと連携し<b>運動習慣の定着</b>を図る。</li> <li>・健康づくりに取り組む働き世代の増加や高齢者のICT普及を目指し、<b>オンライン版健康ポイントの創設・普及</b>を図る。</li> </ul>			
事業概要・ 主な経費	<p>○企業・事業所 (働く社員) をターゲットとして市の保健師や管理栄養士、その他講師の派遣による健康講座を開催し、健康づくりの取組を支援する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康講座講師報償費 50千円</li> <li>・取組調査経費 126千円</li> </ul> <p>○個人をターゲットとして市内スポーツクラブ及び市内スポーツトレーナーとタイアップし、運動習慣づくりを行い生活習慣状況の追跡調査と、調査結果の周知を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動指導及びフォローアップ調査経費 市内スポーツクラブ等事業者 6,061千円</li> </ul>			
KPI	<ul style="list-style-type: none"> <li>①事業を通じて健康づくり(メディカルフィットネスまたは健康チャレンジポイント)に取り組んだ30歳-59歳の人数 (当該年度目標値250人)</li> <li>②事業を通じたメディカルフィットネスにおける体組成または健診検査項目の改善者数 (当該年度目標値55人)</li> <li>③健康チャレンジポイント満点者のオンライン利用者数 (当該年度目標値100人)</li> <li>④事業に参加した企業・事業所の数 (当該年度目標値25社)</li> </ul>		関連URL	<p><a href="https://city.kamaishi.iwate.jp/">令和5年度 運動習慣定着支援事業を実施しています！   釜石市 (city.kamaishi.iwate.jp)</a></p> <p><a href="https://city.kamaishi.iwate.jp/">令和5年度 かまいし健康チャレンジポイント   釜石市 (city.kamaishi.iwate.jp)</a></p>



オープンシティ釜石

説明は以上です ご清聴ありがとうございました

